桜島の火山活動解説資料

福岡管区気象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方気象台

＜火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）が継続＞

本日（29 日）、09 時 27 分に昭和火口で爆発的噴火が発生しました。多量の噴煙が火口縁上 3,000ｍまで上がり東北東に流れました。この噴火による降灰は、鹿児島市から宮崎市にかけて確認されました。桜島島内の鹿児島市黒神町（昭和火口から東側約４km）では、約１cm の小さな噴石（火山れき）が確認されました。この噴火により 09 時 52 分に降灰予報を発表しました。

今のところ大規模な噴火が発生する兆候は認められませんが、昭和火口及び南岳山頂火口から概ね２km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

平成 24 年３月 21 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）の切替を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○　活動概況

・噴煙などの表面現象の状況（図１）

本日（29 日）09 時 27 分に爆発的噴火[1)]が発生し、多量の噴煙が火口縁上 3,000ｍまで上がり東北東に流れました。

・降灰の状況（図２、図３）

鹿児島地方気象台及び宮崎地方気象台が本日実施した、現地調査および聞き取り調査の結果、鹿児島市から宮崎市にかけて降灰が確認されました。桜島島内の現地調査では、鹿児島市黒神町（昭和火口から東側約４km）では、約１cm の小さな噴石（火山れき）が確認されました。鹿児島県によるとこの爆発的噴火による被害は確認されませんでした。

・地殻変動の状況（図４）

有村観測坑道の水管傾斜計[2)]では特段の変化は認められませんでした。伸縮計[2)]では、爆発的噴火前に伸びの変化が認められ、爆発的噴火後、収縮しました。

1）桜島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または気象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としています。
2）大隅河川国道事務所設置

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/）や気象庁ホームページ（http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、九州地方整備局大隅河川国道事務所、京都大学のデータを利用して作成しました。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50ｍメッシュ（標高）』、『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

図１　桜島　牛根カメラ及び重富カメラ（大隅河川国道事務所）から見た昭和火口の噴火の状況
左図：噴煙上昇中の状況（29 日 09 時 35 分頃）
右図：噴煙上昇中の状況（29 日 09 時 30 分頃）
多量の噴煙が火口縁上 3,000ｍまで上がり、東北東へ流れました。

図２　桜島　桜島島内での降灰の状況
左図：鹿児島市黒神町で確認された約１㎝の小さな噴石（火山れき）
右図：鹿児島市黒神町における降灰の状況

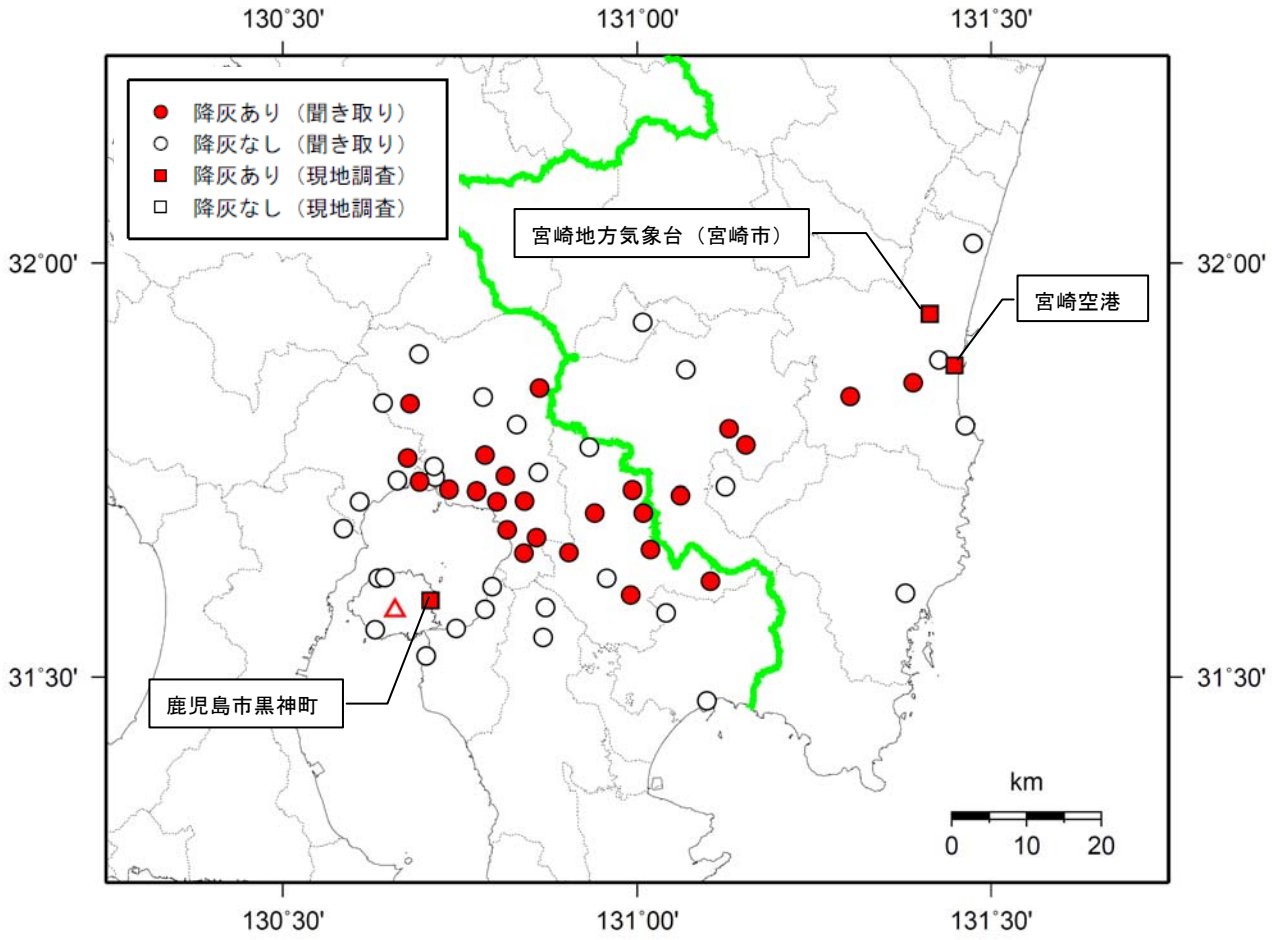

図３　桜島　降灰が確認された地点

鹿児島地方気象台及び宮崎地方気象台が本日（29 日）実施した、現地調査および聞き取り調査の結果、鹿児島市から宮崎市にかけて降灰が確認されました。桜島島内の現地調査では、鹿児島市黒神町（昭和火口から東側約４km）では、約１cm の小さな噴石（火山れき）が確認されました。

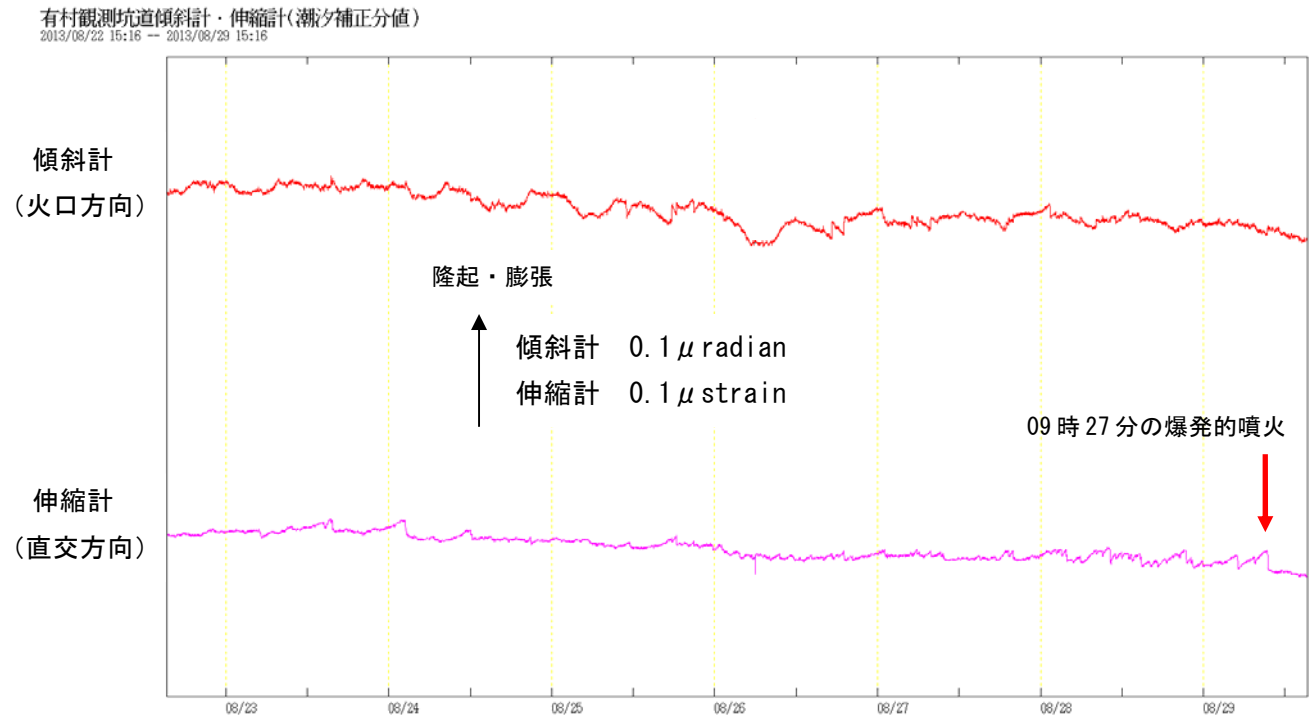

図４　桜島　地殻変動の状況（2013 年８月 22～29 日）

有村観測坑道の水管傾斜計では特段の変化は認められませんでした。伸縮計では、爆発的噴火前に伸びの変化が認められ、爆発的噴火後、収縮しました。

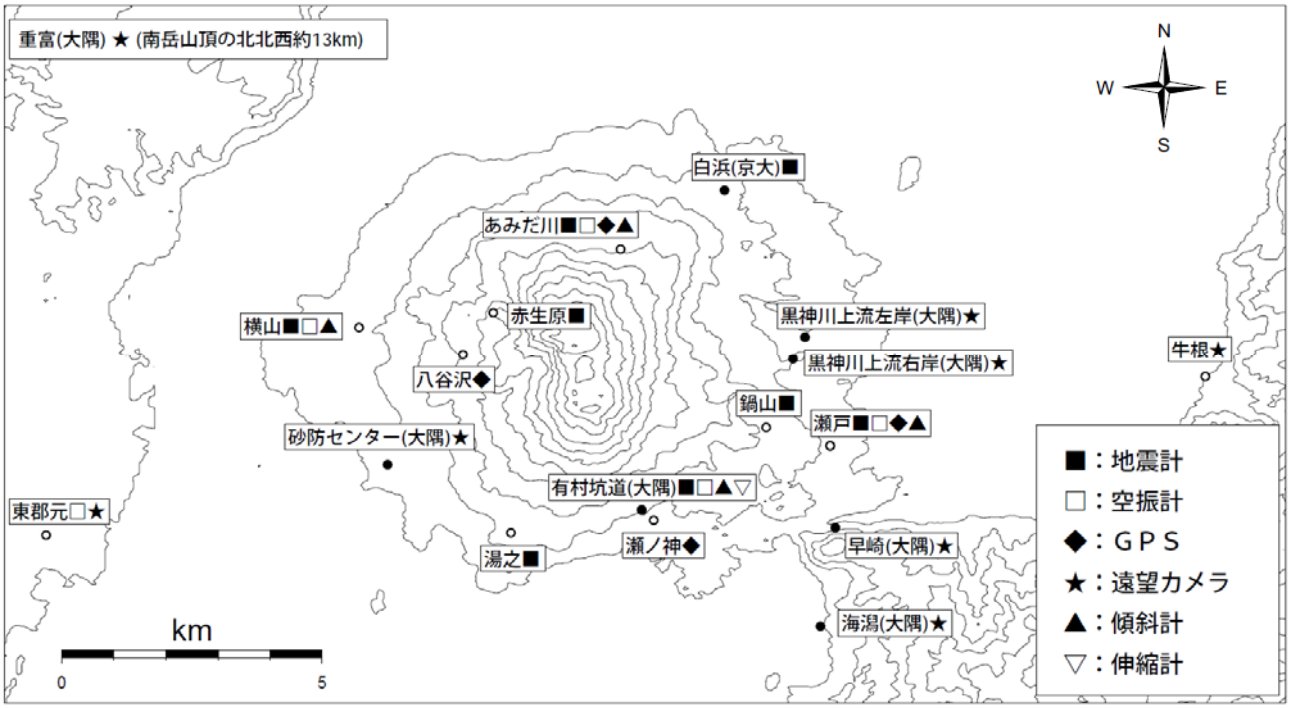

図５　桜島　観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（大隅）：大隅河川国道事務所設置、（京大）：京都大学防災研究所設置